

第6回焼津市スマートシティ推進検討会

日時：令和6年7月1日（月）午後3時～

会場：焼津市役所4階応接室

1. 開会

<報告>

東海情報通信懇談会会長表彰受賞について

2. 議事

<報告事項 1 >

令和 5 年度スマートシティ推進事業について

<報告事項 2 >

令和 6 年度スマートシティ推進事業の全体像について

<協議事項>

スマートシティ推進体制の拡充について

3. 閉会

<報告>

東海情報通信懇談会会長表彰受賞について

東海情報通信懇談会会長表彰受賞について

- 6月4日（火）、名古屋観光ホテルで、総務省東海総合通信局と東海情報通信懇談会が主催する「令和6年度電波の日・情報通信月間記念式典」が開催された。
- 式典には、東海地域の放送通信関連事業者や関係者約200人参加し、電波の利用や情報通信の発展に貢献した個人（7人）や団体（9団体）が表彰を受けた。
- 焼津市はスマートシティYAIZUの取り組みが評価され、「東海情報通信懇談会会長表彰」を受賞し、同会の岩田彰会長（名古屋工業大学大学院名誉教授）から福與副市長が表彰状を受け取った。

■東海情報通信懇談会会長表彰

電波の日、情報通信月間に記念式典において、東海情報通信懇談会が情報通信の発展に貢献のあった個人や団体を表彰するもの。

■東海情報通信懇談会

【会の目的】 東海地域の特性に応じた情報通信・放送の普及・発展を図り、産業経済活動の活性化、住民生活の向上に寄与する。

【会長】 岩田彰名古屋工業大学名誉教授

【会員】 161の企業等や41名の大学教授

【所管】 総務省東海総合通信局



表彰状を受け取った福與副市長と東海総合通信懇談会の岩田会長

＜報告事項 1＞

令和 5 年度
焼津市スマートシティ推進事業について

令和5年度は次の3つの取り組みを中心に事業を実施。

(1) 令和5年度スマートシティYAIZUプラットフォーム保守・運用業務

(2) 令和5年度スマートシティYAIZUデータ利活用促進業務

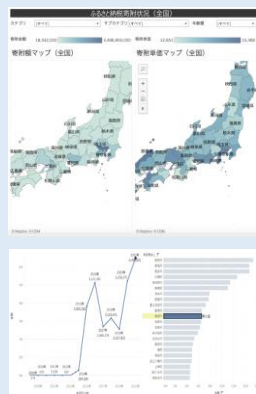
(3) スマートシティYAIZU推進方針策定業務

(1) 令和5年度スマートシティYAIZUプラットフォーム保守・運用業務

令和4年度に構築した「データ連携基盤」や、「焼津データマップ」「焼津データ分析サイト」「避難情報のプッシュ配信の迅速化」「焼津APIカタログ」の各サービスについて、安定運用と利活用促進に努めた。

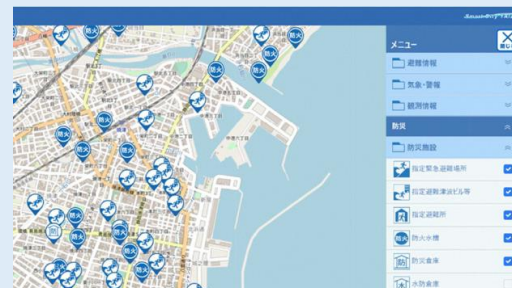
① 焼津データ分析サイト

焼津に関するデータを、グラフや地図を使って可視化することができるサービス。



② 焼津データマップ

さまざまなデータを一つの地図で重ねて見ることができるサービス。



【産業・観光】
・観光、イベント情報、公共施設 ほか

【防災】・災害情報リアルタイム表示・洪水、土砂災害、津波の各ハザードマップ

③ 避難情報プッシュ配信の迅速化

データ連携基盤を活用し、市の災害情報共有システムで発令した避難情報を、自動で焼津防災メールや、市LINE公式アカウントに配信



④ 焼津APIカタログ

データを利用する事業者向けサービス。データの流通を促進するため、機械判読可能な形式でデータを公開。

①「焼津データ分析サイト」

サービスのターゲット	【一般公開サイト】 ・焼津市民、焼津市の観光交流客 【限定公開サイト】 ・焼津市内のふるさと納税協力事業者等
実績	【一般公開サイト】 ・コンテンツ数：2022年度 8件 → 2023年度 18件 ・閲覧数：2022年度 14,362件 → 2023年度 64,693件 【限定公開サイト】 ・コンテンツ数：2022年度 10件 → 2023年度 10件 ・閲覧数：2022年度 939件 → 2023年度 1,168件

②「焼津データマップ」

サービスのターゲット	【産業・観光】焼津市の観光・交流客 【防災】焼津市LINE公式アカウント登録者（ターゲットリーチ）
実績	【産業・観光分野の地図情報閲覧数】 ・2022年度 11,758APIコール → 2023年度 5,189APIコール 【防災分野の地図情報閲覧数】 ・2022年度 27,969APIコール → 2023年度 28,411APIコール

③「避難情報プッシュ配信の迅速化」

サービスのターゲット	焼津市LINE公式アカウント登録者（ターゲットリーチ）
実績	【LINEターゲットリーチ数】 ・2022年度 95,766人 → 2023年度 115,537人

④「焼津APIカタログ」

サービスのターゲット	データ利活用事業者、スマートシティサービス提供事業者
実績	2022年度 APIキー発行者数 5 件 → 2023年度 APIキー発行者数 15件

(2) 令和5年度スマートシティYAIZUデータ利活用促進業務

市内事業者を対象としたデータ利活用を促進するための事業。データドリブン経営に関するセミナーや、データ利活用のための伴走支援、焼津データ分析サイトの活用等に取り組んだ。

■ 参加者

- ・ 市内事業者 5 社

■ 事業内容

- ・ データドリブン経営セミナー：全5回
- ・ 伴走支援：全5回×5事業者
- ・ IT経営フォーラム参加：パネルディスカッション、事業説明ブース
- ・ 成果報告会



(3) スマートシティYAIZU推進方針策定業務

焼津市が目指すスマートシティの姿と、それを実現するために必要な考え方や取り組みをまとめた「スマートシティYAIZU推進方針」を策定。

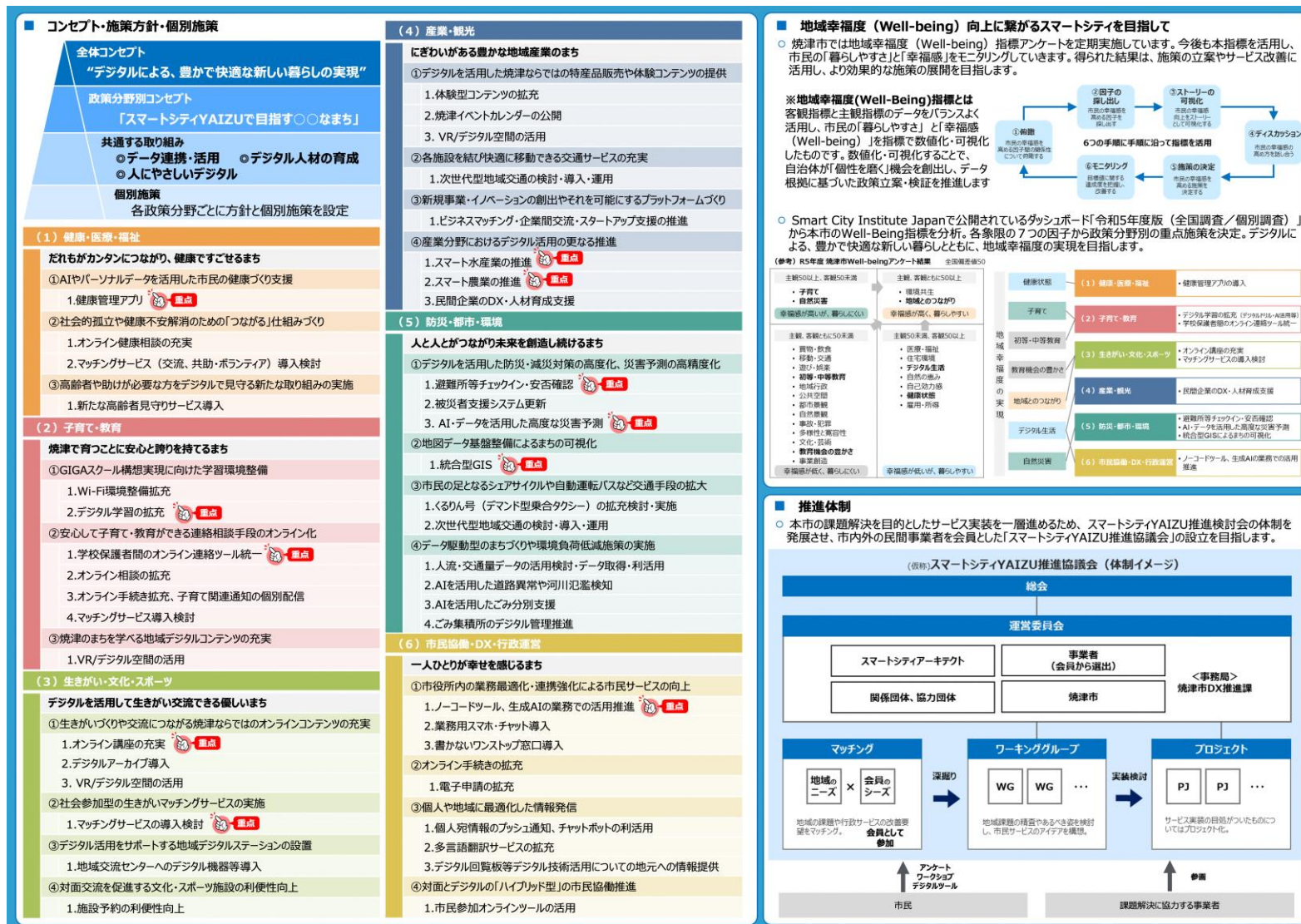


焼津市が目指すスマートシティの姿を示した「ビジョンマップ」

2. 議事【報告事項1：令和5年度焼津市スマートシティ推進事業について】

12

- 6つの政策分野ごとに施策の方針を定め、重点的に取り組む事項等を整理。
- 地域幸福度の活用や推進体制の拡充についても記載。



＜報告事項 2＞

令和 6 年度焼津市スマートシティ推進事業の
全体像について

令和6年度に取り組むスマートシティ関連事業は以下のとおり。

継続

(1) 令和6年度スマートシティYAIZUプラットフォーム保守・運用業務

「データ連携基盤」「焼津データマップ」「焼津データ分析サイト」「避難情報のプッシュ配信の迅速化」「焼津APIカタログ」の安定運用と利活用促進を図る。

継続

(2) 令和6年度スマートシティYAIZUデータ利活用促進業務

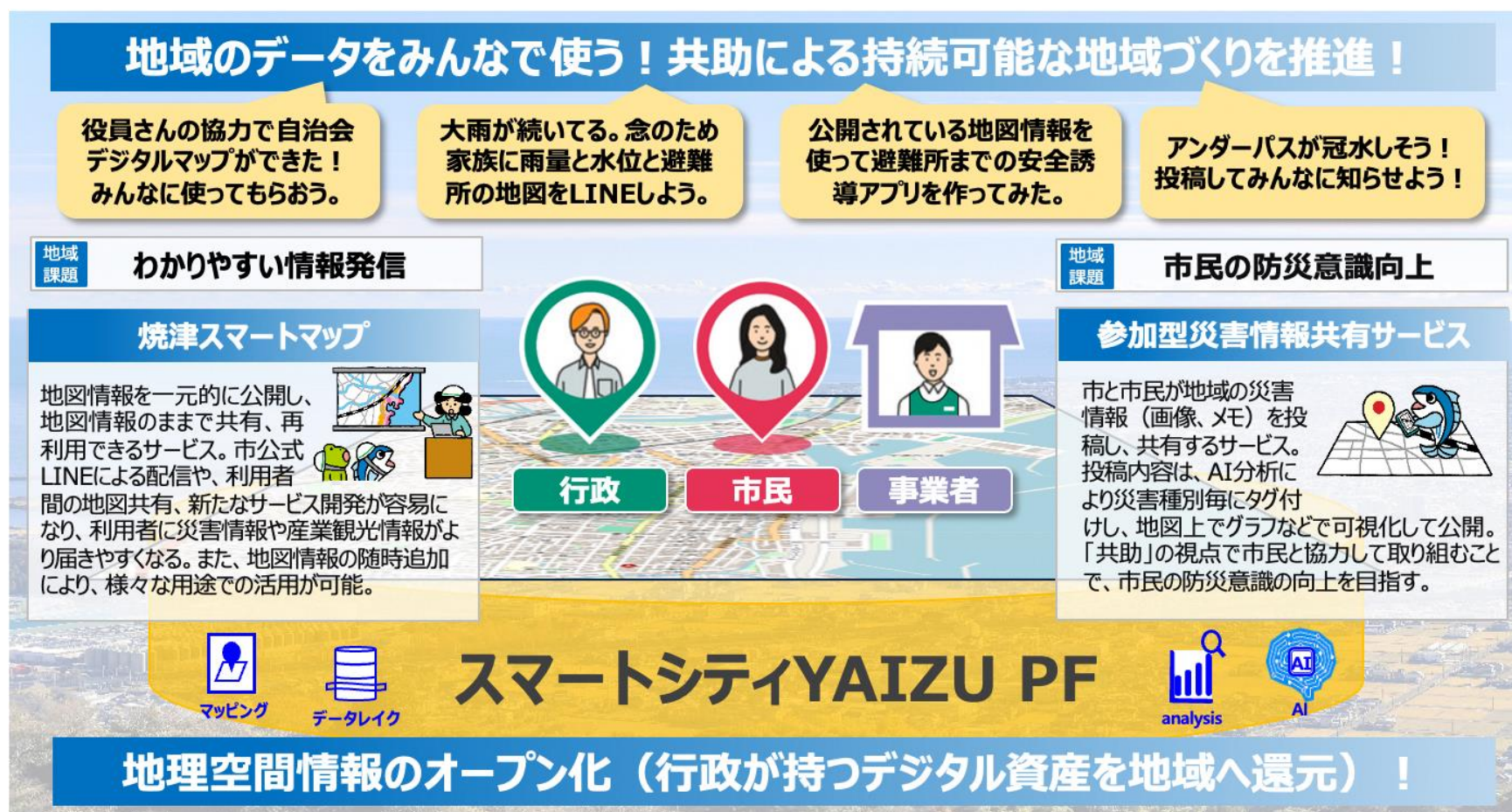
新規に参加事業者を募集し、市内事業者におけるデータ利活用の促進を図る。
昨年度の参加事業者へのフォローアップも実施。

新規

(3) スマートシティYAIZU「みんなで使う地図情報サービス」事業

（3）スマートシティYAIZU「みんなで使う地図情報サービス」事業

令和5年度補正デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ（TYPE2）の採択を受け、地図情報を「使い込む」事業を実施。



① 焼津スマートマップ

様々な地図情報を公開し、共有、再利用できるサービス。庁内GISで管理・蓄積したデータを公開GISで一元的に公開し、市民や事業者の利便性向上を図る。

高速・快適、共有容易！ユーザーフレンドリーな「公開GIS」

- 地域の地理空間データを一元的に表示し、利用者の利便性を向上させるため運用中の焼津データマップを「焼津スマートマップ」として改修する。
- 道路台帳図や都市計画図など、比較的容量の大きなデータも、高速・快適に、重ねて表示できるようにする。
- リンク共有ができる仕様とし、利用者が簡単に地図情報を共有できるようにする。
- オープンデータカタログの整備や、開発者向けのソースコード公開などにより、地図情報利用のハードルを下げる。

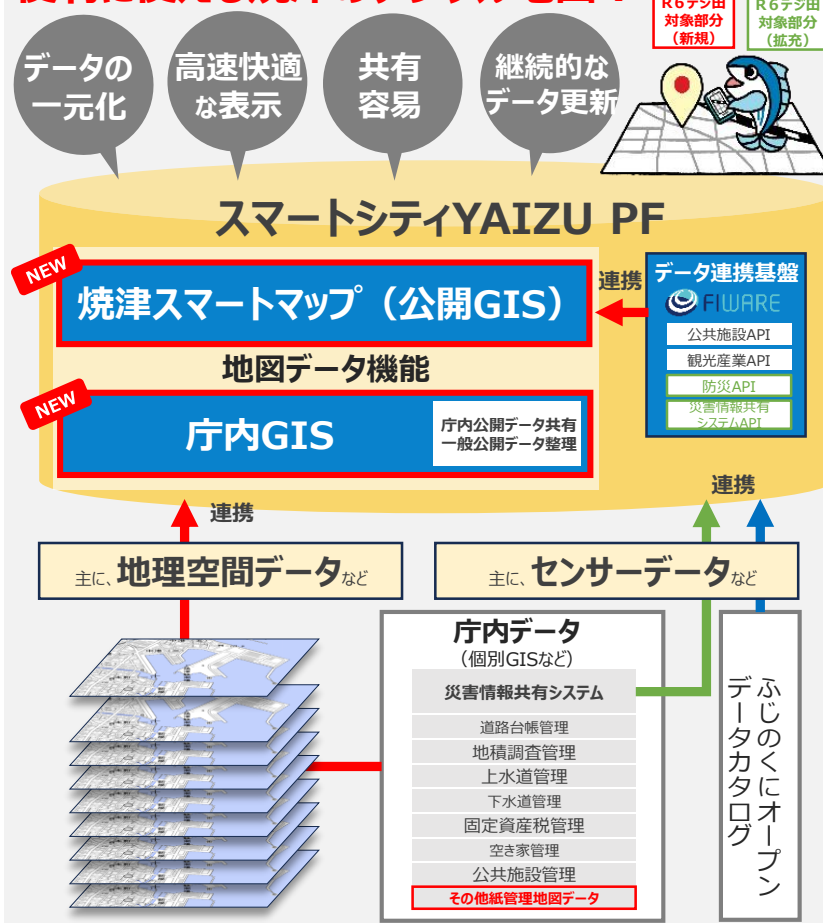
データ更新、新データの公開を可能にする「庁内GIS」

- 市役所内で管理している個別の地図情報を庁内で共有し、公開するための整理を行う「庁内GIS」を整備。「焼津スマートマップ」との連携で、継続的なデータ更新や、新たな公開データの追加を容易にする。
- 「自治会区域図」、デマンドタクシーや自主運行バスの「路線図」、など、紙ベースで管理している情報のデジタル化に取り組み、公開可能データとして管理を行う。
- ごみ集積所などの市役所内の各種台帳図のデジタル化も検討し、直ちに公開はできないデータについても、迅速な問い合わせ対応や政策立案に活用する。

データ連携基盤との連携

- R4に構築したデータ連携基盤とAPIを活用。特に、防災分野のサービス強化のため、地震対応等の避難情報区分「地震」「津波」「高潮」「原子力」を追加し、市民の防災意識の向上を図る。

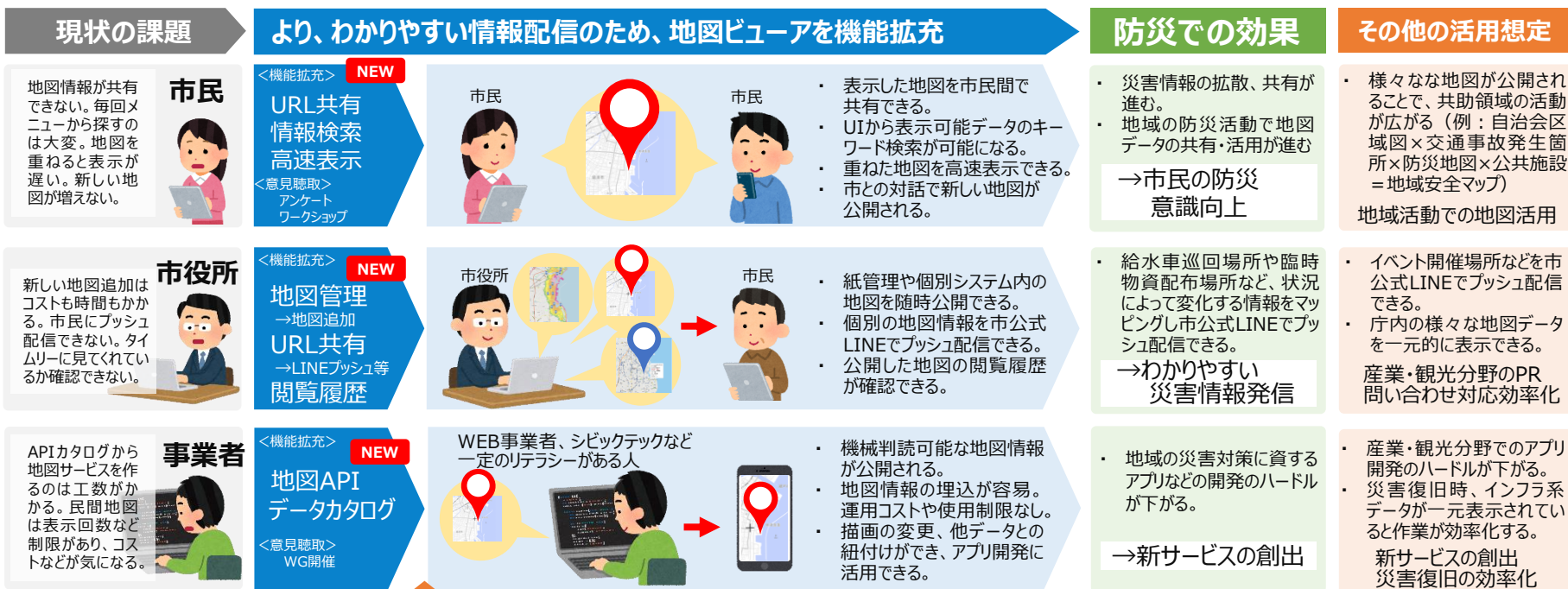
便利に使える焼津のデジタル地図！



2. 議事 【報告事項2：令和6年度焼津市スマートシティ推進事業の全体像について】

焼津スマートマップでできるようになること

- ・ 市民が、地図上でさまざまな情報を簡単に探すことができ、他の人に共有することができる。
- ・ 市職員が、紙で管理してきた地図情報を自席で利用しているPC上で効率的に管理できる。各課の地図情報の庁内共有が容易になる。地図情報を一般公開することができる。
- ・ 事業者は、市が公開する地図情報をオープンデータとして簡単に活用することができる。



市民や事業者が必要とするデータを随時更新・追加！



スマートシティYAIZU PF

NEW 地図データ機能

地理空間情報のオープン化
行政の地図情報を地域へ還元

「見る地図」から、利用者が「使える地図」へ

利用者が主体的に使えるサービスに改修し、
「災害情報のわかりやすい発信」にみんなで取り組む！

② 参加型災害情報共有サービス

- 民間事業者が提供するAI災害情報分析サービスを利用して投稿情報を可視化し、防災関連情報と合わせて焼津スマートマップで表示することで、よりわかりやすい災害情報の発信を実現するサービス。
- 市民自らが情報の発信主体となる仕組みを構築し、地域一体となった共助による災害情報発信に取り組み、市民の防災意識を向上させる。

AIテキスト分析で投稿情報を整理し地図上で表示

- 職員のパトロール情報や、消防団等の市民からの投稿（画像、テキスト、位置情報）をLINEで収集。AIのテキスト分析で、自然災害の状況等（氾濫・浸水・冠水、土砂災害、建物被害、道路・水道トラブル、停電、倒木など）をタグ付けし、グラフ等で可視化。地域でどのような被害が起きているかわかりやすくする。
- 可視化した情報は、データ連携により焼津スマートマップ上でリアルタイムに公開し、地域全体で災害発生状況を共有する。

市のデータ×民間データで「先手を打つ防災」が可能に

- スマートシティYAIZUの防災APIで管理する市の水位計・雨量計データと、民間事業者が保有する気象関連データを連携。現在利用している広域気象予測「静岡県中部南」に加え、今後は焼津市に焦点を当てた詳細な気象予測の利用も可能になる。
- これにより、パトロールなどの防災活動や災害対応体制の準備を迅速に行うための「先手を打つ防災」に活用できる。
- また、過去の被害状況と現在の気象状況を重ね合わせることでデータに基づきリスク察知が可能となる。市民への注意喚起や避難情報発出の参考とする。

「共助」の意識で災害情報を発信

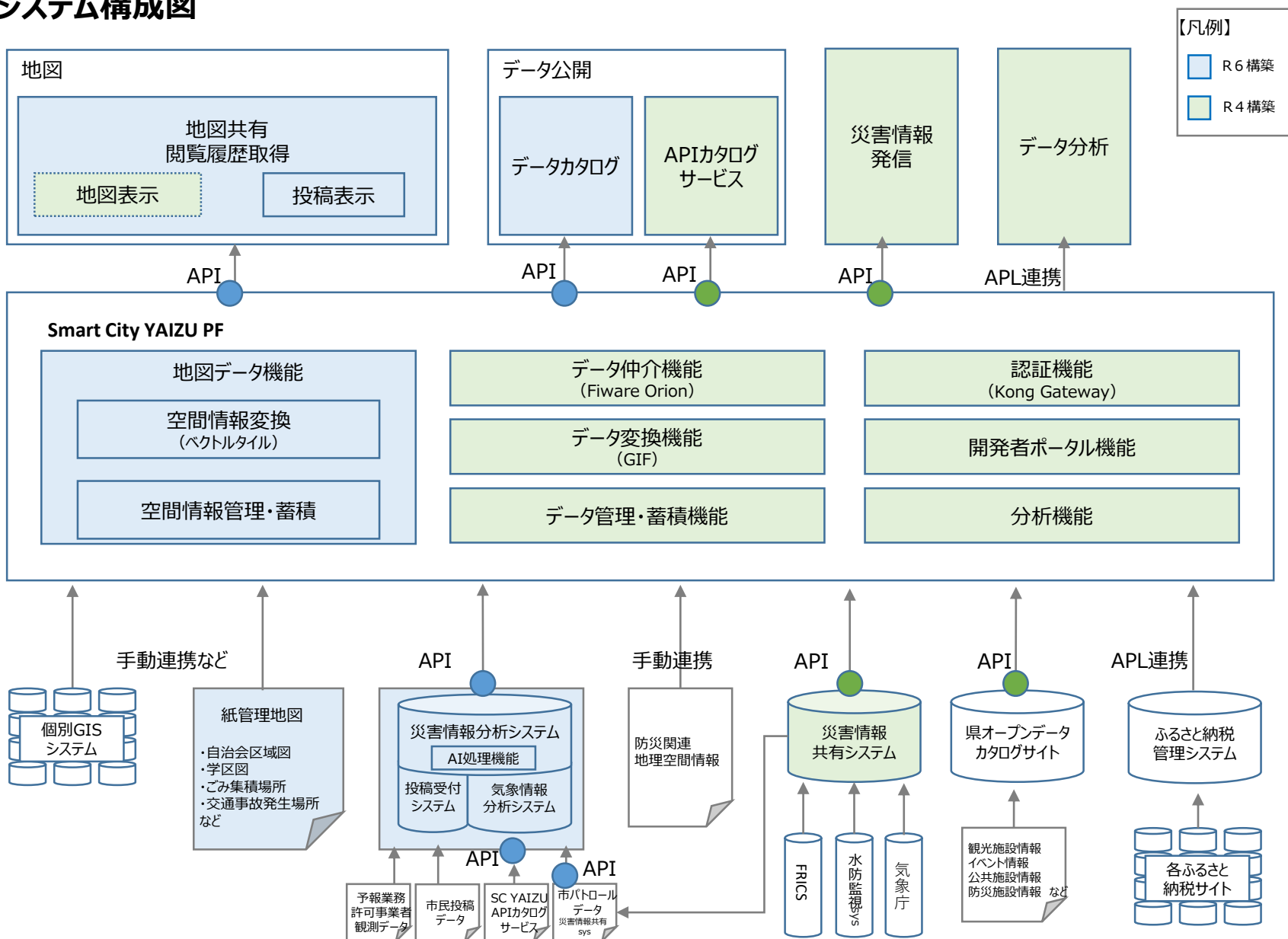


■ 全体システム構成図

サービス

データ連携基盤
(都市OSレイヤ)

データ・アセット



スマートシティYAIZUみんなで使う地図情報サービス事業（関連事業一覧）

デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ（TYPE 2）を活用した、スマートシティYAIZU「みんなで使う地図情報サービス」事業として、以下の7つの関連業務を実施。

①スマートシティYAIZUプラットフォーム 地図データ機能（庁内GIS）構築業務

委託事業者：国際航業

- ・ 全職員がアクセス可能な庁内GISの構築
- ・ 庁内個別GISデータやデジタル化した紙管理地図データ等の取り込み・調整
- ・ 一般公開可能データの吐き出し
- ・ 職員研修の実施

②紙管理地図情報のデジタル化業務

委託事業者：現在選定中

- ・ 紙ベースの地図等で管理している庁内の地図情報をデジタル化
- ・ 庁内GISに取り込めるデータ形式で納品

③スマートシティYAIZUプラットフォーム 地図データ機能（地図API）及び公開型GIS等構築 業務

委託事業者：Geolonia

- ・ 地図情報のベクトルタイル化機能構築
- ・ 地図API、オープンデータカタログの整備
- ・ 公開型GIS等地図アプリケーション構築
- ・ 公開管理機能構築
- ・ 焼津APIカタログ等、他システムとの連携

④参加型災害情報共有サービス実装業務

委託事業者：ウェザーニューズ

- ・ 焼津市と民間事業者の気象データを連携。詳細な気象予測サービスの提供を受ける。
- ・ 職員や市民からの投稿をLINEで収集。AIのテキスト分析で、自然災害の状況等をタグ付けし、グラフ等で可視化。

⑤災害情報共有システム API開発業務

委託事業者：アジア航測

- ・ 災害情報共有システムに蓄積した職員の防災パトロール情報を、参加型災害情報共有サービスと連携するためのAPIの開発を行う。

⑥データ連携基盤の改修業務

委託事業者：NTT西日本

- ・ 防災部事業の災害情報共有システムの改修（災害情報区分の追加：地震・津波・高潮・原子力）に合わせ、国の共通仕様に合わせた形式でデータ連携基盤にデータを取り込み、公開できるように改修。

⑦焼津市スマートシティ推進協議会運営支援業務

委託事業者：トーマツ

※詳細は＜協議事項＞で説明

- ・ スマートシティYAIZUの推進体制整備として現在の推進検討会の機能を拡充。運営委員会の組成やWGの運営を行う。
- ・ 地域幸福度指標を政策立案に繋げるための取り組みなどを行う。

＜協議事項＞

スマートシティ推進体制の拡充について

(2) 令和6年度焼津市スマートシティ推進協議会運営支援業務

- ・ 現在の焼津市スマートシティ推進検討会の機能を拡充。第3四半期に設立総会を開催し、会員募集や運営委員会の組成、ワーキンググループの運営を行う。
- ・ 地域幸福度指標を政策立案に繋げるための取り組みを検討。
- ・ 焼津市の課題と事業者のサービスをマッチングする仕組みづくりを検討する。

◆受託者：有限責任監査法人トーマツ
(公募型プロポーザル方式により選定)

検討中の事業内容については、別紙資料にて、受託事業者が説明。

プロポーザルの際の仕様書記載の業務内容（抜粋）

- (1) 協議会設立準備
 - ①協議会の組成、運営体制の構築
 - ②規約案の作成
 - ③ルール・ガイドライン等の整理・策定
 - ④事業計画案の作成
 - ⑤焼津市スマートシティ推進検討会への説明
- (2) 協議会運営支援
 - ①会員募集・会員管理
 - ②会員間のコミュニケーション
 - ③協議会設立総会の開催
 - ④運営委員会の運営支援
 - ⑤ワーキンググループの運営支援
 - ⑥広報活動
 - ⑦情報収集、施策検討
- (3) 地域幸福度指標の活用、市民意見の反映
 - ①地域幸福度指標活用プロセスによるループの実施
 - ②市民意見の反映
- (4) 焼津市の課題とデジタル技術のマッチング支援
 - ①ニーズ・シーズマッチングの仕組みづくり
 - ②ニーズ（行政課題、地域課題）の顕在化